

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014 年 8 月 4 日提出

氏名	黒田 弥乃梨
所属	獣医衛生学教室
学年	D2
出張先	熊本大学
出張期間	2014 年 6 月 20 日－2014 年 6 月 22 日
目的	第 2 回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議に出席するため。

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

私は第 2 回全国博士課程教育リーディングプログラム (以下リーディングプログラム) 学生会議に出席した。本会議は学生が自ら企画している。本会議の目的は、一つの議題に対するディスカッションを通して全国のリーディングプログラムの学生がお互いの情報を共有し、自分の視野を広げることにある。今回の議題は「博士の Employability と博士教育と社会との接続」である。リーディングプログラムでは産官学にわたりグローバルに活躍する博士リーダーの育成を目指しており、プログラムに所属する学生は各々が掲げる理想のリーダー像に向かい日々研鑽を積んでいる。しかし、その目指すべき方向が社会のニーズと合っているのか、どのような博士人材が社会に必要とされているか、模索すべき点が多々ある。そこで、本会議ではまず、話し合いを通して、博士人材と雇用に関するアイデアを学生間で共有した後、学生たちが「博士人材が社会に貢献していくために、私たちがすべきこと、企業、雇用者、および今後の大学院に望むこと」についてグループで自らの提案をまとめ、発表した。

話し合いは "World Café" の形式で行われた。"World Café" とは、会議室で日々繰り返される機能的な会議とは異なり、「カフェ」で行われるような、オープンで自由な意見を発言できる場を目指した話し合いの手法である。本形式では 1 つのテーマについて、テーブルを移動しながら様々な学生と会話をすることができる。意見を掘り下げることは時間的に難しいが、自分とは異なるアイデアを取り入れ、自分の視野を広めることができる点で有用である。今回は博士人材と雇用に関して以下の 3 つの視点から話し合いを行った。

- (1) 博士として私たちが働くに当たり求めるものは何か。
- (2) 社会が博士に求めるものはどのようなものか。今の私たちに足りないもの、必要なものは何か。
- (3) 私たちの夢 (やりたいこと、なりたいもの) に対する現実のギャップを埋める

ため、自分たちや雇用者、大学院は何をすべきか。

これらの話し合いを通して、自分たちが社会のニーズを知る機会、雇用者が博士人材について知る機会、大学院と雇用者間のつながりが十分でないことが問題点として浮上した。実際に、産業界、政界など様々な分野の第一線で活躍されている方も本会議に出席していた。本会議内での彼らの講演によると、企業はコミュニケーション能力を持ち、フレキシビリティな対応ができる人材を求めている。しかし、企業が抱く博士に対するイメージは「長期的視点に立った基礎研究へのあこがれが強すぎる」、「周りとは協調した研究ができない」、「専門外の人に対する説明能力が欠けている」など、必ずしもプラスイメージが強いとは言えなかった。このイメージを払しょくするためには、博士人材のメリットが「専門性」だけではないことを企業側に発信する必要がある。博士課程の学生は研究を通して専門性を磨くのはもちろん、論理的思考や問題提起/解決能力を身につけることが可能だ。また、リーディングプログラムでは、自身の専門外の分野の人と接する機会が多い。彼らとのコミュニケーションに当たり、話し手は自分の専門分野をわかりやすく相手に伝える必要がある。逆に聞き手は話し手の内容を理解できるよう柔軟な考え方と専門分野を超えた幅広い知識を持たなければならない。たとえば、他大学のリーディングプログラムでは、社会科学を学ぶ博士課程の学生が電気工学を学び、発展途上国のフィールドワークで電気工学の知識を生かしながら自身の研究を進めていた。これらリーディングプログラムの博士課程特有の訓練により、企業が必要としているような、コミュニケーション能力やフレキシビリティな対応に長けた人材になりうると考えられる。学生は以上の能力を身につけるよう日々の訓練や経験を積み重ねると同時に、社会のニーズに対してアンテナを張り、雇用者とコンタクトをとる機会を模索する必要がある。一方、大学院は、学生が研究や他分野の授業を通して問題解決能力や俯瞰力を身に付けられるよう学生を教育すると同時に、雇用側に対して、博士人材が社会に対してどのような点で有用であるのかをアピールすることも必要である。雇用者と学生、大学院のつながりを強くするための方法として、今回のような学生主体で開かれる会議に雇用者を招待して博士課程の学生の活動を雇用者にアピールする他、雇用者と学生のフォーラムを開催することなどが挙げられる。北海道大学では人材育成本部が博士課程の学生の就職サポートを行っており、定期的にフォーラムを開催している。雇用者と学生お互いを知ること、雇用側は博士人材の有用性を理解し、学生は社会のニーズを調査し、就職に当たり必要なことを考察できる。そのため学生は常に自分の将来について考え、大学のプログラムを大いに活用し、これらのフォーラムに積極的に参加し、情報を収集することが必要である。それと同時に、私は博士人材“のみ”が持つ強み（専門性など）を社会や雇用者のニーズに合わせて発展させ、社会にプロモーションすることも大切

ではないかと考えた。

今回の会議は、全国のリーディングプログラムの学生とつながりを持ち、常に新鮮な情報、意見を取り入れるきっかけを得られた点で貴重な場であった。今後彼らと強いつながりを持ち、情報交換をしていきたい。



Fig 1. World Café での話し合いの様子



Fig 2. グループごとの発表の様子



Fig 3. 本会議に参加した本学科学生

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 獣医衛生学教室・教授 堀内 基広 印
---------	--------------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp